



# 交通死亡事故 ゼロを目指して

町では、県の平成29年市町村別交通事故防止コンクールCグループ（人口1万人未満の町村）で第1位となり、2月20日に表彰を受けました。平成29年中に死亡事故がなかったことに加え、事故発生状況も例年より少なかったこと、そして町内の交通安全に関する活動などが評価されました。今月号では、県内の交通事故の現状と、交通安全に関する取り組みを紹介します。

## 安全運転のポイント

### 思いやり・ゆずり合い運転

- 危険が発生した場合でも安全に停止できるような速度と、車間距離を取って運転しましょう
- 進路変更する際は、バックミラーや目視で安全を確認しましょう
- 時間に余裕を持った計画的な運転を心掛けましょう
- こまめに休憩を取って、集中力を保ちましょう
- 特に仕事で車を使うドライバーは、他のドライバーの模範となるような運転を心掛けましょう

### 福島県自転車安全利用五則

- ①自転車は、車道が原則、歩道は例外
- ②車道は左側を通行
- ③歩道は歩行者優先で、車道よりを徐行
- ④安全ルール・マナーを守る  
飲酒運転・2人乗り、並進の禁止  
夜間はライトを点灯・反射材装着  
交差点での信号遵守と一時停止・安全確認  
運転中の携帯電話・ヘッドホン使用・傘さし運転の禁止
- ⑤被害軽減のためヘルメット着用を努める

交通事故死者数は全国で多い方から22番目

## 県内の交通事故状況

### 約1時間30分に1回 事故が発生

平成29年中の県内における交通事故発生件数（人身事故）は5588件で、死者数は68人、傷者数は6710人でした。

前年と比較すると、発生件

表1 県内の交通事故発生状況

	平成29年	前年比(数)	前年比(割合)
発生件数	5,588件	△214件	△3.7%
死者数	68人	△22人	△24.4%
傷者数	6,710人	△402人	△5.7%

表2 高齢者の死傷者数

	平成29年	前年比(数)	全体に占める割合
死者数	37人	△4人	54.4%
傷者数	1,043人	△32人	15.5%

表3 歩行者の事故死者数

	平成29年	全体に占める割合
死者数	21人	54.4%
うち高齢者	15人	71.4%

※「うち高齢者」の「全体に占める割合」は歩行者の死者数に占める高齢者の割合です。

表4 交通事故死傷者のシートベルト着用率

	運転席	助手席	後部座席
シートベルト着用率	98.5%	96.2%	61.3%

表5 高齢運転者による交通事故

	平成29年	前年比(数)	全体に占める割合
発生件数	1,238件	+31件	22.2%
死者数	16人	△3人	23.5%
傷者数	1,469人	+40人	21.9%

また、四輪車乗中の死傷者のうち、運転席の人は98・5割、助手席の人は96・2割がシートベルトを着用していました。が、後部座席の人は61・3割しか着用していませんでした（表4）。シートベルトは

### 死亡事故の特徴

128時間49分に1人が交通事故の犠牲となっており、特に死者数は昭和28年以來64年ぶりに70人を下回りました。

### 命を守るシートベルト

四輪車乗中の死者数29人のうち、シートベルト着用者は18人で、着用率は62・1割でした。非着用の11人のうち8人はシートベルトを着用していれば助かったと推測されています。

### 高齢運転者による交通事故

高齢運転者による交通事故発生件数は、前年比31件増の1238件で全体の22・2割を占めています。事故による死者数は前年より減少していますが、傷者数は増加しています（表5）。

出典：「交通事故のあらまし」平成30年5月発行（県生活環境部生活交通課・県警察本部交通部企画課）





# 町内の交通安全関係団体の取り組み

## 町内の交通事故状況

町内の平成29年中の事故発生件数は3件で、傷者数が3人、死亡事故は発生しませんでした。平成28年に比べ、死者数、傷者数ともに大きく減少しました(表6)。

町内の交通安全関係団体とともに事故防止に向けた取り組みを確認しました。このほか、町内では6月までに2件の事故が発生し、傷者数は4人となっています。

## 交通安全教育専門員

町では、新澤光男さんと須藤求さんの2人に交通安全教育専門員を任命し、朝の通学路で

表6 町内の交通事故発生状況(6月末現在)

	平成29年	前年比(数)
発生件数	3件	△3件
死者数	0人	△3人
傷者数	3人	△4人



季節ごとに街頭啓発を行い、子どもたちの通学を見守りながら横断歩道の渡り方などを指導しています。

の街頭指導のほか、小学校やこゆりこども園での交通安全教室、交通安全広報車による広報活動、町内各種イベントでの交通安全などをお願ひしています。晴れの日も、雨の日も、雪の日も、交通安全教育専門員は子どもたちを交通事故から守るため、見守り活動を行っています。

## 喜多方地区交通安全協会西会津支部

喜多方地区交通安全協会西会津支部では、3期目を迎えた本間義治支部長の下、5地区の分会長が協力しながら、カーブミラーの点検清掃、季節ごとの街頭啓発、交通安全啓発のぼり旗の掲出、見通しが悪い道路の草刈りなど、きめ細やかな事故防止活動を行っています。

## 交通安全母の会

平成29年に町内の保育所が統合し、こゆりこども園となったことから、交通安全母の会も町内で一つの会に統合しました。それまで各地区で活動していた分会の事業を継承しつつも、会が一つになったことで、より柔軟で大規模な活動ができるようになりました。交通安全母の会では、

毎月一日の防災無線による広報活動のほか、季節ごとに街頭啓発を行いながら、「交通安全は家庭から」をスローガンに女性ならではの視点で交通事故防止活動に取り組んでいます。こゆりこども園での交通安全教室や、最近ではサロンでの交通安全教室、高齢者宅への訪問活動、年賀状送付などの事業も展開しています。



7月16日に行った「夏の交通安全ふれあいキャンペーン(梅干し作戦)」では、眠気防止の梅干しや交通安全パンフレットなどをドライバーの皆さんに配布しました。

# 運転免許証自主返納支援事業

本年度からの新たな町の支援 車の運転を卒業する皆さんへ

町では、本年度から運転免許を自主返納した人に対してデマンドバスや会津交通タクシーの回数券、町共通商品券などを交付する支援事業を行っています。

## 支援の内容

- ①デマンドバス回数券(100円×300枚)
- ②会津交通タクシー回数券(500円×60枚)
- ③町共通商品券(10000円×30枚)

※3万円を限度に1万円単位で自由に組み合わせることができます。

## 〈問い合わせ先〉

町民税務課 町民生活係  
☎45-2215

## 運転免許証の返納

6月25日に行った贈呈式では、薄彦喜町長が「近年、高齢者の交通死亡事故が増えています。町としては皆さんにまだまだ長生きしてほしいと思っています。定時定路線バスの運行も計画していますので、支援事業を有効に活用し、豊かな人生を送ってください」と話し、支援事業第1号の薄彦次さん、2人目の塚原茂さんの代理マサノさん、3人目の高橋博子さんにそれぞれデマンドバスの回数券などを手渡しました。

運転免許証の返納手続きは、県内の警察署または福島・郡山免許センターに問い合わせください。奥川地区にお住いの場合は奥川駐在所(☎49-2026)でも手続きできます。

# Voice 自主返納者と家族の声



自分が免許を返納

## 薄彦次さん(樟山)

「高齢になったから」。これが一番の理由です。2~3年前から返納を考えていました。今は家族が運転する車やバスなどを移動手段にしていますが、やはり自分で運転した方が良いと思うこともあります。これから何とか慣れていきたいと思っています。



自分が免許を返納

## 高橋博子さん(滑沢)

バイクの免許を持っていて、農作業に行くときなどに使っていました。年を重ねるにつれて、エンジンをかけるためにキックする力や車体を起こす力がなくなってしまったことが返納の理由です。バイクがなくても、近くの畑で野菜作りに励みたいと思っています。



家族が免許を返納

## 塚原マサノさん(上野尻)

夫(塚原茂さん)が高齢になり、車の運転に不安を感じていました。ですから、返納を決断してくれて良かったと思っています。少し前から自分でも「免許は返す」と言っていたので、ちょうど良く支援事業が始まり、タイミングが良かったなと感じています。